

# 武蔵国分寺跡資料館だより

Musashi Kokubunji Temple Remains Museum Newsletter

編集・発行・印刷

見る／学ぶ／訪ねる／  
武蔵国分寺跡資料館

Musashi Kokubunji Temple Remains Museum

[住所] 〒185-0023 東京都国分寺市西元町1-13-10  
[電話] 042-323-4103 [FAX] 042-300-0091  
[E-mail] museum@city.kokubunji.tokyo.jp  
[HPアドレス] http://www.city.kokubunji.tokyo.jp/shisetsu/kouen/1005196/1004239.html

2022.10  
第49号



令和4年秋以降に企画されている講演会



要申込・参加費無料

武蔵国分寺跡史跡指定100周年

## 記念講演会

— 第1部 講演会 —

記念講演：「武蔵国分寺跡によせる心」

講師 坂詰 秀一 先生  
(立正大学特別名誉教授)

— 第2部 シンポジウム —

基調講演：「国分寺の伽藍と武蔵国分寺」

講師 須田 勉 先生  
(元国士舘大学教授)

事例報告：①武蔵国分寺跡 ②下野国分寺跡  
③上総国分寺跡 ④相模国分寺跡

日時：10月22日(土) 10:00～16:30 (開場9:30)  
会場：国分寺市立いずみホール  
申込み：事前申込制 (250人先着順)

天平の記憶 つないだ100年 つなぐ100年



【申込み案内】

申込方法：ふるさと文化財課へ電話またはEメールで  
Eメールは、件名を「記念講演会申込」とし、  
本文に「氏名(ふりがな)・電話番号・住所」  
を明記してください

申込期間：9月20日(火)～10月14日(金)

問合せ：国分寺市教育委員会ふるさと文化財課

(〒185-0023 東京都国分寺市1-13-10)

TEL：042-300-0073

※土日祝は042-323-4103(武蔵国分寺跡資料館)

Eメール：shiseki100@city.kokubunji.tokyo.jp

詳しくは市HP〔1028558〕をご覧ください

東京都公文書館・本多公民会連携企画

## 本多公民館 歴史講座

①本多雖軒と地域の医療

講師：工藤航平さん(国立歴史民俗博物館准教授)

②玉川上水と国分寺市内の分水

講師：白井哲也さん(筑波大学教授)

日時：①10月29日(土)、②11月12日(土)

ともに13:30～15:30(開場13:00)

会場：本多公民館

申込み：電話または本多公民館へ

(受付①9月16日(金)から

②10月18日(火)から)

問合せ：本多公民館 042-321-0085

観光考古学会パネルディスカッション

## 「武蔵国分寺跡の保存と観光活用」

観光と考古学の融合を図って、地域における遺跡や  
文化資源の活用について考えます。

日時：11月19日(土) 13:00～16:40

(開場12:30)

会場：国分寺市立いずみホール・オンライン有

申込み：10月16日(日)より

申込み方法：メール・電話・観光考古学会HPより

Eメール：jim@kano-koko.jp 電話：03-6206-2190

問合せ：観光考古学会

史跡指定・住田正二先生誕生

100周年記念シンポジウム

## 「武蔵国分寺の造営と文字瓦」

国分寺の造営事業を地域社会がどのように受けと  
め、実現につとめたのか、古瓦から読み解きます。

講演：佐藤 信さん(東京大学名誉教授)ほか

日時：12月11日(日) 13:00～16:45

(開場12:30)

会場：国分寺市立いずみホール

申込み：11月16日(水)より

(詳細は市報等をご確認ください)

主催：国分寺市教育委員会

住田古瓦考古学研究支援委員会

# 武蔵国分寺跡／史跡調査のあゆみ（前編）

武蔵国分寺跡で初めて科学的な調査が行われたのは明治36年(1903)になります。調査成果を報告した『古蹟』によれば、重田定一と柴田常恵により礎石の分布状況を中心とした調査が行われ、金堂・講堂・塔跡など主要建物の相互位置関係が推定されました。更に沼田頼輔が『武蔵野第一巻第一号』に「武蔵国分寺遺跡考」として発表した古瓦研究と共に、武蔵国分寺跡研究の基礎が築かれました。

大正時代に入ると、住田正一により「武蔵国分寺古瓦に就て」(大正4年)と「武蔵国分寺文字瓦に就て」(大正6年)の論文が発表され、遺跡から出土する遺物にも焦点を当てた研究が行われるようになります。大正11年(1922)の史跡指定後に行われた調査では、稲村坦元と後藤守一の手でこれらの研究を基に瓦の分布状況や礎石の配石配置が調べられ、新たに僧坊の場所が推定されました。

史跡指定後、調査の進展は戦後を待つことになり、昭和31年(1956)に石田茂作(当時東京国立博物館学芸部長)を委員長とする日本考古学協会の仏教遺跡調査特別委員会によって初めて本格的な発掘調査が行われました。発掘調査は僧寺金堂・講堂跡、国分寺崖線上の伽藍地区画溝に及び、同33年(1958)の第2次調査では回廊推定跡及び南門跡推定地の調査が行われました。

その後、尼寺跡地区の宅地開発問題から国分寺市は石田茂作を顧問に迎えて滝口宏・内藤正恒・久保常晴らを団長とした調査団を組織し、昭和39年(1964)から同44年の間に全5次の緊急調査を行いました。この調査では、それまでの調査成果を基に詳細な地形図を作成し、そこから各所の発掘溝(トレンチ)を設定し、発掘を行う方法がとられ、僧寺の塔跡・中門跡・堀状遺構・鐘楼跡・北方建物跡の規模が明らかになりました。

塔跡の調査では原位置での再建が確認され、『続日本後

紀』の塔再建記事と符合する事が明らかになりました。また尼寺の調査も進み、尼寺金堂跡が推定され、尼坊跡の規模と構造が判明しました。

昭和49年(1974)に国分寺市は武蔵国分寺跡保存基本方針を設け、武蔵国分寺跡の調査は武蔵国分寺遺跡調査会(現国分寺市遺跡調査会)が担う体制が整い、昭和60年(1985)までの間に寺域の確認と周辺の様相把握を目的とした第1期寺域確認調査が行われました。

第1期寺域確認調査では僧寺金堂を中心とした東西約900m・南北約550mの寺院地と約3町半四方の僧寺伽藍地、寺院地南西隅の約1町半四方の尼寺伽藍地が調査対象となりました。更に寺地関係地区も調査対象となり、掘立柱建物跡、竪穴住居跡、土坑墓、井戸跡が検出されました。また、武蔵国分寺と武蔵国府を結ぶ道路跡や伽藍地区画溝の調査も行われ、武蔵国分寺跡の詳細な姿が明らかになりました。

この調査により武蔵国分寺跡は寺院地・伽藍地(寺域)・中枢部の3種に区画され(下図参照)、これをもとに奈良から平安時代末までの400年の期間を創建期・整備拡充期・衰退期の3期に区分しました。

同調査では大量の資料も出土しました。その多くは古瓦ですが土器・陶器類、土製品、石製品、鉄製品、青銅製品なども出土しました。出土資料の中には墨書土器や郡名や郷名が刻まれた古瓦などもあり、それらから武蔵国分寺内の施設や建立に携わった郡が推定されました。

この様に、第1期寺域確認調査では金堂や講堂などの中枢地域以外の地区の調査も行われました。その結果、武蔵国分寺の詳細な姿が明らかになり、建立に携わった地域も判明し、武蔵国分寺研究が大いに進展する事になりました。(石井 秀和)



武蔵国分寺跡全体図と各区画地の分布

武蔵国分寺跡はこれまでの調査の結果、僧寺が寺院地、伽藍地、中枢部の三重に、尼寺が伽藍地、中枢部の二重にそれぞれ区画されていることが分かりました。第1期寺域確認調査では武蔵国分寺跡を構成する主要な寺院地・伽藍地・中枢部の区画が確定し、武蔵国分寺に関連する施設である周辺集落分布域の寺地も設定されました。第2期寺域確認調査では創建期に作られた古寺院地が確定しました。

区画範囲	名称	区画施設(溝)名称
ADEG	寺院地	寺院地区画溝
BCHI	伽藍地	伽藍地区画溝
アイウエ	中枢部	中枢部区画施設
JDEF	古寺院地	古寺院地区画溝
周辺集落分布域	寺地	

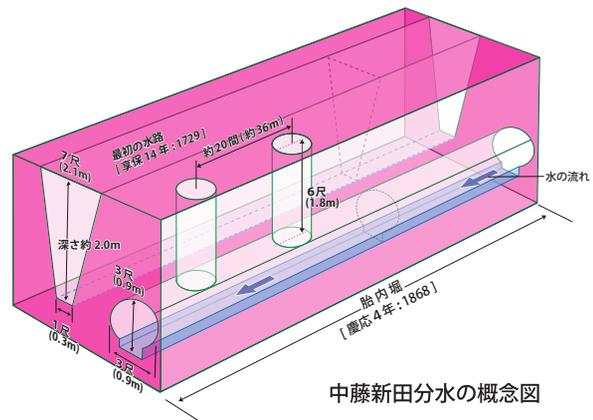
国分寺市教育委員会は、令和4年9月30日付けで西町地区に所在する中藤新田分水跡を市重要史跡として指定しました。これにより市内の指定文化財は、国や東京都の指定物件を含めて41件を数えます。

中藤新田分水は、現在の国分寺市北西部から立川市北東部一帯に広がる武蔵野新田のうち、中藤新田他5カ村が利用した玉川上水の分水で、享保14年(1729)に砂川新田地先の羽ヶ下に分水口を設置した飲み用水です。新田村の基幹水路として長らく役割を担った分水は、元治元年(1864)に分水口の木樋が腐食すると、玉川上水の上流へ取水先を移動しましたが、他の水路と交差するなど伏替え工事は難航し、慶応4年(1868)に暗渠の堀(胎内堀)を敷設することで水量確保の解決に繋がりました。その範囲は、当初は玉川上水の分水口より立川・国分寺市境までの540間(約981m)で、工事は同年8月に着手して10月に完了をみました。その後、明治政府が玉川上水に通船計画を通達し、明治3年(1870)6月に分水口が統廃合されると、中藤新田分水は五日市街道沿いに流れる砂川用水を介して取水し、翌年には市境から下流付近までの415間(約754m)も胎内堀は延長されました。

昨秋、教育委員会が地下レーダー探査と発掘調査を行ったところ、上面幅2.1~2.5m、深さ1.8~2.1m、断面逆台形状を呈する開渠の堀と、並走して幅0.9~1.3m、高さ0.9~1.3m、断面マッシュルーム形状を呈する胎内堀が、ともに良好な状態で残されていることが判明しました。なお、胎内堀は20間(約36m)間隔で、深さ1.8~2.0mの竪坑を伴い、堀底面の標高は開渠の堀に比べて約0.3~0.6mほど低い位置関係にありました。

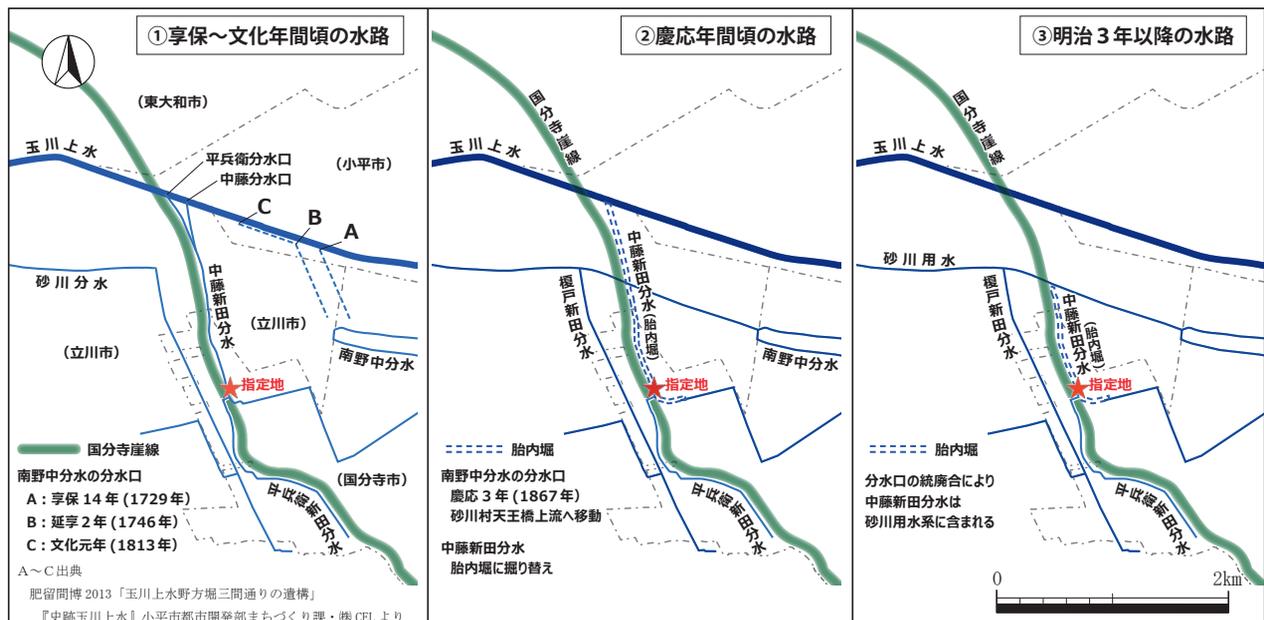
現在の国分寺市域は江戸時代の10カ村からなり、野川

の源流を抱える国分寺・恋ヶ窪村以外の8カ村は享保期の新田開発に伴って誕生した新田村で、村の成立には玉川上水からの飲み用水の確保が大きな要因となりました。かつて市内各所に張り巡っていた分水の多くは水道の普及とともに所期の役割を終え、コンクリート造りの三面護岸・暗渠化により排水施設へ再利用され、一部は埋め立てるなど、その姿形が大きく変貌を遂げているのが現状です。そうしたなか、市内では明暦3年(1657)に田用水として開削された恋ヶ窪村分水と中藤新田分水跡の2カ所は往時の遺構を留め、前者は平成29年度に遺構を現地に示しながら緑地整備を行い、市民の憩いの場・歴史学習の場として供用しています。一方の后者は、調査の結果、恋ヶ窪村分水より約200年新しい江戸時代末期から明治時代初頭に着工・完了をみた分水ですが、他の新田村に供する分水との競合や明治政府の玉川上水管理方針等により、開渠の堀から暗渠の堀(胎内堀)へと作り替えた構造上の歴史的変遷がとらえられ、さらに玉川上水の分水としては稀少な胎内堀の形状を呈しています。地域で暮らした村民たちが、自らの飲み水確保のため苦難の末に工事を成し遂げた土木遺産として貴重な史跡と考えられます。(依田 亮一)



中藤新田分水の概念図

中藤新田分水の時期別変遷図



## INFORMATION

### おたかの道湧水園無料公開のお知らせ



おたかの道湧水園を史跡指定 100 周年を記念して、  
右記の期間中無料公開します。

【開催期間】令和4年10月12日（水）～11月6日（日）  
【開館時間】午前9時～午後5時  
（入園は午後4時45分まで）

### 史跡指定 100 周年記念各種ワークショップのお知らせ



史跡指定 100 周年を記念しておたかの道湧水園内において小・中学生を対象とした以下のワークショップを開催します。

#### 拓本教室

【開催日】令和4年10月16日（日）  
【実施時間】①午前10時～11時30分 ②午後1時～3時

#### レプリカをつくろう

【開催日】令和4年11月6日（日）  
【実施時間】①午前10時 ②午前11時 ③午後1時30分 ④午後2時30分  
【申込み】10月17日から電話受付（042-300-0073）

#### 謎解きクイズラリー

【開催期間】令和4年10月29日（土）～11月6日（日）  
午前9時～午後5時（入園は午後4時45分まで）

### 東京都公文書館連携展示「史料に見る国分寺のあゆみ～江戸時代の村々～」開催のお知らせ



東京都公文書館との連携事業として、武蔵国分寺跡史跡指定 100 周年を記念した共催展示を開催します。古文書を中心とした近世・近代史料からみた国分寺市域の様相等を紹介するとともに、武蔵国分寺跡のあゆみについても取り上げます。

【開催期間】令和4年10月21日（金）～12月20日（火）  
午前9時～午後5時（受付は午後4時30分まで）

【会場】東京都公文書館 企画展示室

【休館日】日曜日・祝日・第3水曜日（11月16日）

【入場料】無料

### 来館者数

2009年10月18日～2022年7月末日

来館者数累計 156,729 名

多くのご来館ありがとうございました

【4月～7月の学校見学】

	学校数	人数
小学生	8	663
中学生	1	133
高校生	1	2

月	来館者数	開館日数
4	1,413	26
5	1,763	26
6	1,212	26
7	857	27
計	5,245	105

○来館者数は、おたかの道湧水園の入園者数

### 武蔵国分寺跡資料館ご利用案内

※新型コロナウイルス感染症対策のため、マスクの着用・手指の消毒などにご協力ください。



#### 交通のご案内

【電車】JR国分寺駅下車／徒歩約20分 JR西国分寺駅下車／徒歩約15分

【バス】国分寺市循環バス『ぶんバス』万葉・けやきルート「史跡武蔵国分寺跡」下車／徒歩約8分

国分寺市循環バス『ぶんバス』日吉町ルート「泉町一丁目」下車／徒歩約8分

国分寺駅南口より「京王バス」系統番号〈寺83〉・〈寺85〉乗車「泉町一丁目」下車／徒歩約8分

#### ■開館時間

午前9時～午後5時（入園は午後4時45分まで）

#### ■休館日

毎週月曜日（祝日・振替休日の場合はその翌日）  
年末年始（12月29日から1月3日まで）

※展示替えなどで臨時休館することがあります。

#### ■入園料

資料館に入館するには「おたかの道湧水園」への入園料が必要になります。（入園券は史跡の駅で販売）

一般……………100円（年間パスポート1,000円）

中学生以下……無料

#### 【入園料の減免規則があります】

(1) 学校の教育活動で生徒（中学生を除く）、学生及び引率の教職員が入園するとき〔事前（5日前まで）に減免申請書の提出が必要です。〕

(2) 身体障害者及びその介護者が入園するとき〔発券窓口の史跡の駅で身体障害者手帳等の提示が必要です。〕

(3) その他教育長が特別の理由があると認めるとき〔事前（5日前まで）に減免申請書の提出が必要です。〕

※減免申請書は、国分寺市のホームページからダウンロードできます。



見る 学ぶ 訪ねる

武蔵国分寺跡  
資料館

Musashi Kokubunji Temple Remains Museum



ホームページQRコード